第４章　丸岡城跡の文化財的価値と構成要素の分類

4．1　丸岡城跡の文化財的価値

4．1．1　丸岡城跡の文化財的価値

丸岡城城山を丸岡城跡として保存・活用していくにあたっては、丸岡城跡の文化財的価値を明確にする必要がある。

そこで、第３章までの内容を踏まえ、丸岡城跡の文化財的価値を以下のとおりに整理する。

①　往時の城郭構造が良く残っていること

丸岡城城山を中心として当時の石垣や曲輪の一部が良好に残存していることが令和元（2019）年度までに行った発掘調査により確認され、丸岡城の構造を知ることができる。なお、内堀は五角形の形状が城山周辺の道路配置に見て取れ、外堀の一部は用水路等に今も利用され残っているなど、往時の城郭構造が分かる町割りが残っている。

②　天守と城山が一体となって現存していること

丸岡城城山は、築城時から坂井平野の独立丘として存在し、丸岡城城郭の中核である本丸であり、天守と一体的にその価値を形成している。なお、天守は江戸時代前期に建てられたものが現存しており、福井地震によって一度倒壊したものの、古材の多くを採用して修復され、現在は重要文化財に指定されている。

③　丸岡城城山からは坂井平野を広範囲で望むことができ、当地が選定された意味を体感できること

丸岡城城山からは周辺に広がる坂井平野を一望できる。坂井平野一帯は地形が大きく改変されておらず、城山からの眺望からは当時の様相を体感できる。

4．1．2　文化財的価値以外の丸岡城跡の価値

丸岡城跡は文化財的価値の他に現在までをたどる歴史の中で備わった次のような価値も有している。

①　地域のシンボルであり、住民の憩いの場でもあり、地域と密接に関わってきた歴史を有すること

丸岡城城山は坂井平野にある独立丘陵であり、天守は坂井市域の広範囲から望むことができる坂井市のシンボルである。一方で、昭和 30（1955）年以降、都市公園「霞ヶ城公園」として憩いの場、集いの場として地域の人々に活用されてきた歴史を有する。昭和初期から城山にはサクラが植えられ始め、平成 18（2006）年に「日本さくら名所 100 選」にも選ばれた。春には桜まつりが、秋には古城まつりが開催されるなど、様々な形で親しまれている。

②　坂井市を代表する観光資源であること

丸岡城城山に建つ天守は全国に現存する 12 天守のひとつとして高い知名度と集客力を誇る。福井県下でも代表的な観光地の一つであり、毎年、全国から多くの観光客が訪れている。また城山やその周辺地域では古城まつりを始めとする多くのイベントが開催されており、期間中は市内外から訪れる多くの来訪者で賑わっている。

以上のような価値を丸岡城跡のその他の価値として認め、丸岡城跡を語るうえで欠かせない価値として尊重する。

4．2　丸岡城城山の構成要素の分類

丸岡城城山は丸岡城跡の本丸や松ノ丸等の城の中枢にあたり、曲輪や石垣を含め当時の地形をよく留めている。そのため、丸岡城城山は丸岡城跡の文化財的価値を伝える重要な地であるといえる。

そこで、前項で整理した文化財的価値およびその他の価値を踏まえ、丸岡城城山における構成要素を以下の通りに分類する。

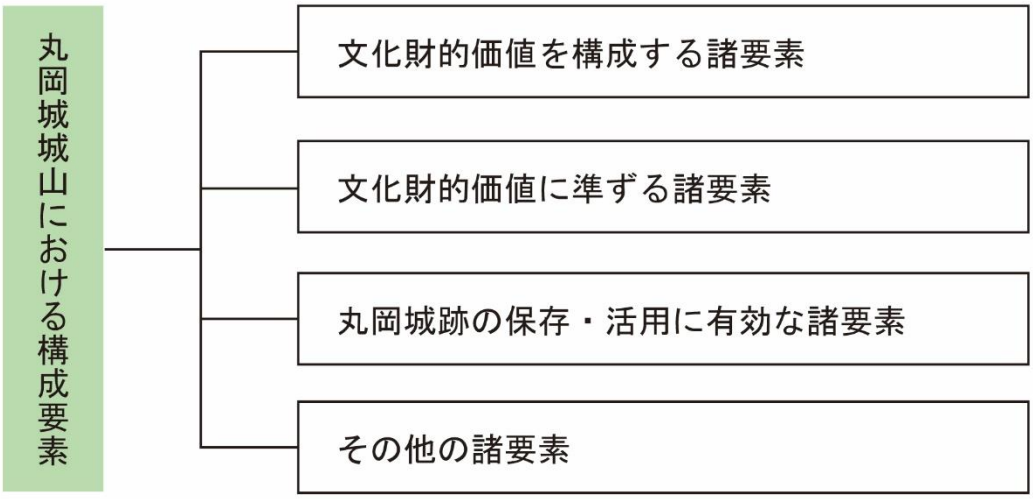


図 4-1．構成要素の体系図

表 4-1．構成要素の分類表

項目		概要
丸岡城城山における構成要素	文化財的価値を構成する諸要素	丸岡城跡の文化財的価値となる要素である。 丸岡城城山に残る天守、石垣、曲輪等が該当する。
	文化財的価値に準ずる諸要素	丸岡城跡に関連が深いもしくは廃城後の歴史を理解する上で重要な要素やその他の価値に関係する要素である。 八幡神社、雲井龍神の祠、樹木等が該当する。
	丸岡城跡の保存・活用に有効な諸要素	丸岡城城山において丸岡城跡の保存・活用に有効な要素である。 近代以降に築かれた石垣、管理事務所、トイレ、園路等が該当する。
	その他の諸要素	上記以外の要素である。丸岡城跡の文化財的価値や保存管理・活用に直接関係しないため、今後取扱いを検討する。 地蔵祠や牛ヶ島石棺及び覆屋等が該当する。

表 4-2. 文化財的価値を構成する諸要素

要素	概要
全体	城山の地形である。
遺構	城山の地上に残る曲輪や自然石野面積、地下に埋蔵されている遺構である。
建造物	城山に残る天守である。

曲輪

自然石野面積

丸岡城天守

図 4-2. 文化財的価値を構成する諸要素分布図
※令和７年（2025）３月時点

表 4-3. 文化財的価値に準ずる諸要素

要素	概要
八幡神社	丸岡城の鎮守社として建てられたと考えられている神社である。
霞城山八幡神社の碑	旧国宝指定を記念して建てられた碑である。昭和 30（1955）年に設置された。
丸岡城八幡神社由緒が刻まれた碑	八幡神社の由緒と建築的特徴が刻まれている碑である。昭和 54（1979）年に設置された。
井戸および覆屋	丸岡城にまつわる伝説の一つ、雲の井龍神伝説が残る井戸とその覆屋である。現在の井戸は明治以降に掘られている。
雲井龍神の祠	丸岡城主となった有馬氏によって勝利の守神として祀られた雲井龍神の祠である。
雲井龍神の碑	雲井龍神の由緒を刻んだ碑である。
お静慰霊碑および墓	天正 3（1575）年丸岡城築城の際に人柱にされたお静を悼んだ碑および墓である。このお静の話はお静人柱伝説として知られている。
天守閣記念碑	有志の寄付を受け天守を大修理した際に建てられた記念碑である。背面は昭和 18（1943）年の解体修理竣工を記念する碑として兼用される。
丸岡城の階段に関する碑	天守石段を町へ寄付した渡辺佐吉の業績を称えた碑である。明治 36（1903）に設置された。
国宝霞ヶ城の碑	天守の旧国宝指定を記念し霞城保存会が建立した碑である。昭和 17（1942）年に設置された。
丸岡城天守の碑	天守の由緒と建築的価値を刻んだ碑である。昭和 63（1988）年に設置された。
一筆啓上の碑	本多重次が妻に送った日本一短いとされる手紙の文を刻んだ碑である。
一筆啓上の碑の註釈碑	一筆啓上の碑の注釈碑である。
友影賢世翁像	昭和 23（1948）年の福井地震により倒壊した丸岡城の再建に尽力した当時の町長友影賢世氏の銅像である。昭和 29（1954）年に設置された。
友影賢世翁碑文	友影賢世翁像の註釈碑である。昭和 30（1955）年に設置された。
樹木	丸岡城城山に 990 本の樹木が植えられている。樹種はツツジが 524 本と最も多く、次いでサクラ 227 本、ツバキ類 129 本となっている。これらの樹木のうち、サクラは霞ヶ城公園が日本のさくら名所 100 選に認定されるほど地域の人々に大切にされている。

八幡神社

霞城山八幡神社の碑

丸岡城八幡神社由緒が刻まれた碑

井戸および覆屋

雲井龍神の祠

雲井龍神の碑

お静慰霊碑および墓

天守閣記念碑

丸岡城の階段に関する碑

国宝霞ヶ城の碑

丸岡城天守の碑

一筆啓上の碑およびその註釈碑

友影賢世翁像およびその碑文

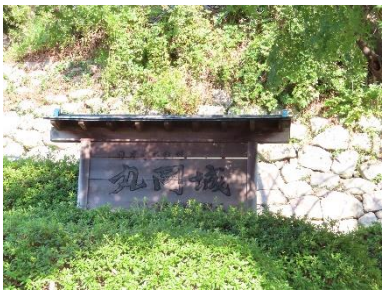
図 4-3. 文化財的価値に準ずる諸要素
※令和７年（2025）３月時点

表 4-4. 丸岡城跡の保存・活用に有効な諸要素

要素	概要
石垣（間知石積、練り積）	間知石積や練り積で築かれた石垣である。
案内サイン	丸岡城城山周辺を案内するサインや一般車両進入禁止を伝えるサインである。
トイレ	本丸東階段を登った先に設置されている。
園路	丸岡城城山を周遊できるようにスロープや階段、遊歩道が設置されている。
連絡道路	丸岡城天守を管理するための車両が通る道路である。一般車両は通行禁止となっている。
車止め	本丸側に進入しないよう設置されている。
ベンチ	丸岡城城山の各地にコンクリート製や擬木製のベンチが設置されている。
外灯	丸岡城城山の各地に設置されている。
照明設備	ライトアップイベントで使用するスポットライトである。
消火設備	消火設備として放水銃と屋外消火栓、ホース格納箱が設置されている。
柵	転落防止を目的とした金属製及び擬木製、木製の柵が法面上部に設置されている。また、侵入防止を目的としたロープ柵や竹柵が設置されている。
塀	木製の塀やコンクリート製の塀が設置されている。
管理事務所	丸岡城天守および霞ヶ城公園一帯の指定管理者の事務所である。
倉庫	丸岡城天守および霞ヶ城公園一帯の指定管理者が使用している倉庫である。
水飲み場	松ノ丸の南端に設置されている水飲み場である。
藤棚	松ノ丸の南端に設置されている藤棚である。
地下埋設物	地下に埋設されている上下水道管や電気設備等である。

石垣（間知石積、練り積）

案内サイン①



案内サイン②

案内サイン③

トイレ

園路（松ノ丸東スロープ）

園路（松ノ丸西階段）

松ノ丸遊歩道

連絡道路

車止め

ベンチ（コンクリート製）

ベンチ（擬木製）

外灯

照明設備および消化設備（放水銃）

消化設備（屋外消火栓）

消化設備（ホース格納箱）

柵（金属製）

柵（木製）

柵（擬木製）

柵（ロープ）

柵（竹製）

木製の塀および案内サイン④

コンクリート製の塀

管理事務所

倉庫①

倉庫②

水飲み場

藤棚

図 4-4. 丸岡城跡の保存・活用に有効な諸要素分布図①
※令和７年（2025）３月時点

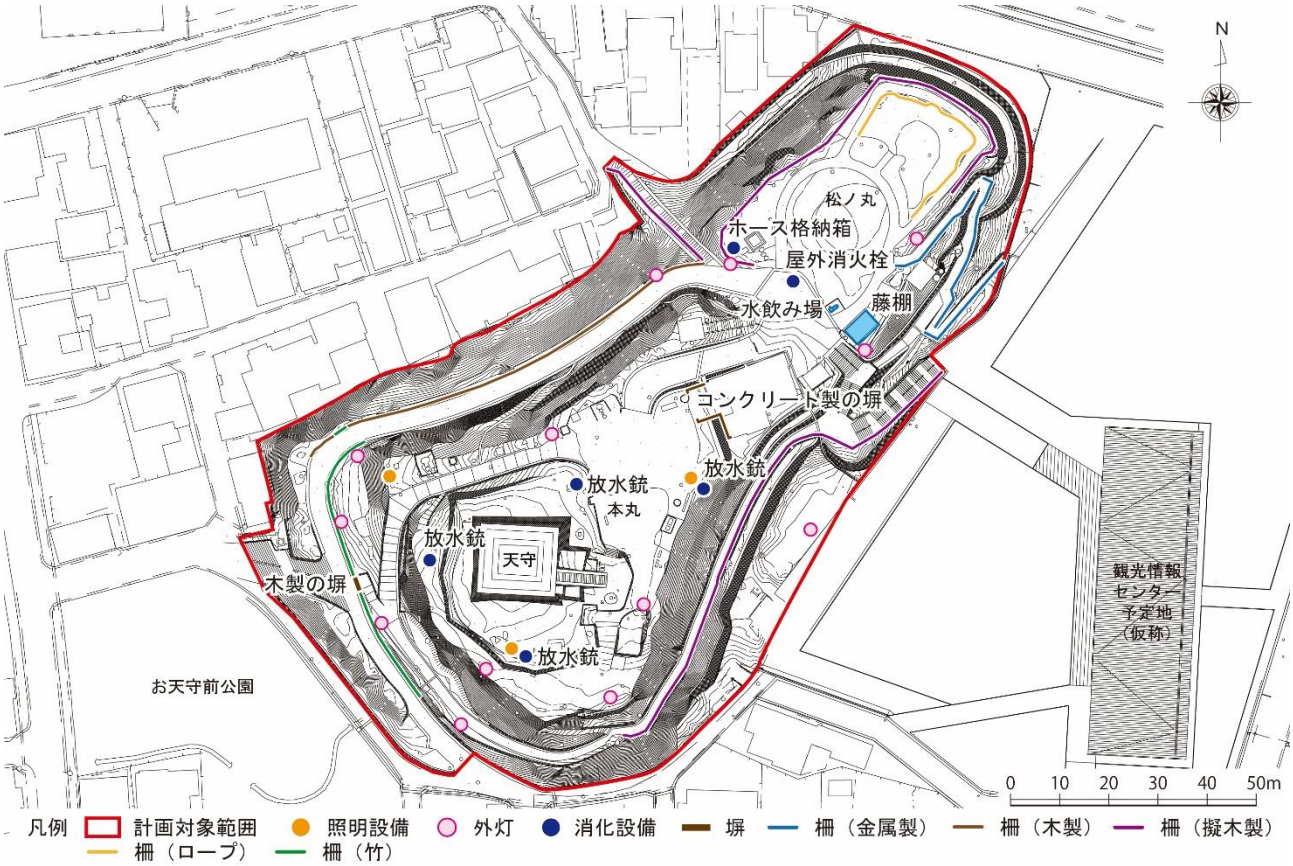


図 4-5. 丸岡城跡の保存・活用に有効な諸要素分布図②
※令和７年（2025）３月時点

表 4-6. その他の諸要素

要素	概要
地蔵祠	本丸北西角に設置されている。時期も設置された経緯も不明だが、地域の人々によって設置されたと考えられる。
牛ヶ島石棺および覆屋	御野山古墳から出土したと伝えられる古墳時代前期後半から中期前半の刳抜式舟形石棺とその覆屋である。刳抜式舟形石棺は坂井市の指定文化財となっている。橋として転用されていたため、昭和 45（1970）年に丸岡城城山に移設された。
東宮殿下御手植の碑	明治 42（1909）年、皇太子（のちの大正天皇）行啓の際に行った植樹を記念した碑である。
松尾芭蕉の句碑	芭蕉の句「初しぐれ猿も小蓑をほしげ也」を刻んだ碑である。
若神松■■の碑	若神松■■と刻まれた碑である。
朝日兩國親善萬歳の碑	福井大震災復興の功労者である朝鮮半島出身者を称えた碑である。昭和 35（1960）年に設置された。
瓦石合屋文仲の碑	藩医の合屋文仲を称えた碑である。明治 27（1894）年に設置された。
俳句の碑	丸岡町出身の俳人中野信次郎（水明渓）の句を刻んだ碑である。
緑陰翁の碑	国学者町原貞熙の碑である。明治 27（1894）年に設置された。
南部治平碑	新町の魚市場の競りを記念した碑である。明治 27（1894）年に設置された。
菘甫津田先生の碑	蓑笠社 11 代宗匠津田吉衛の碑である。明治 39（1906）年に設置された。
消防組頭功労碑	初代伊東弥太郎、２代杉本嘉七、３代西村琳平など明治９（1876）年までの歴代消防団組頭を称えた碑である。
消防組頭功労碑の註釈碑	消防組頭功労碑の註釈碑である。大正４（1915）年に設置された。
丸岡町戦没者名列	日中戦争以降の戦死者の氏名を刻んだ碑である。昭和 29（1954）年に設置された。
忠魂碑	地震後に友影町長によって建てられた明治以降の戦没者供養の碑である。

要素	概要
新道功労碑	明治９～11（1876～1878）年に大聖寺から旧国道を開拓した功労者の氏名を刻んだ碑である。昭和 61（1986）年に設置された。
北陸三堂顕彰碑	丸岡出身の南画家３氏（山田介堂、長田雲堂、内海吉堂）を称えた碑である。
北陸三堂顕彰碑の註釈碑	北陸三堂顕彰碑の註釈碑である。昭和 53（1978）年に設置された。
墨に生きると刻まれた碑	画家の渡辺悟仙の功績を称えた碑である。平成 17（2005）年に設置された。
筆塚	筆の供養塚である。
林田直永先生頌徳碑	丸岡高等女学校（現丸岡高校）の校長を称えた碑である。昭和 43（1968）年に設置された。
御成婚記念碑	昭和天皇の結婚を記念した碑である。
御成婚記念碑の註釈碑	御成婚記念碑の註釈碑である。大正 14（1925）年に設置された。
上水道創設顕彰碑	現在の上水道発展の礎を築いた杉本英二、細川勘右衛門、柳田浅次郎を称えた碑である。昭和 47（1972）年に設置された。
灯籠	北陸三堂顕彰碑前方の左右に１基ずつ設置されている。

地蔵祠

牛ヶ島石棺および覆屋

東宮殿下御手植の碑

松尾芭蕉の句碑

若神松■■の碑

朝日兩國親善萬歲の碑

瓦石合屋文仲の碑

俳句の碑

緑陰翁の碑

南部治平碑

菘甫津田先生の碑

消防組頭功労碑およびその註釈碑

丸岡町戦没者名列

忠魂碑

新道功労碑

北陸三堂顕彰碑

北陸三堂顕彰碑の註釈碑

墨に生きると刻まれた碑

筆塚

林田直永先生頌徳碑

御成婚記念碑

御成婚記念碑の註釈碑

上水道創設顕彰碑

灯籠①

灯籠②

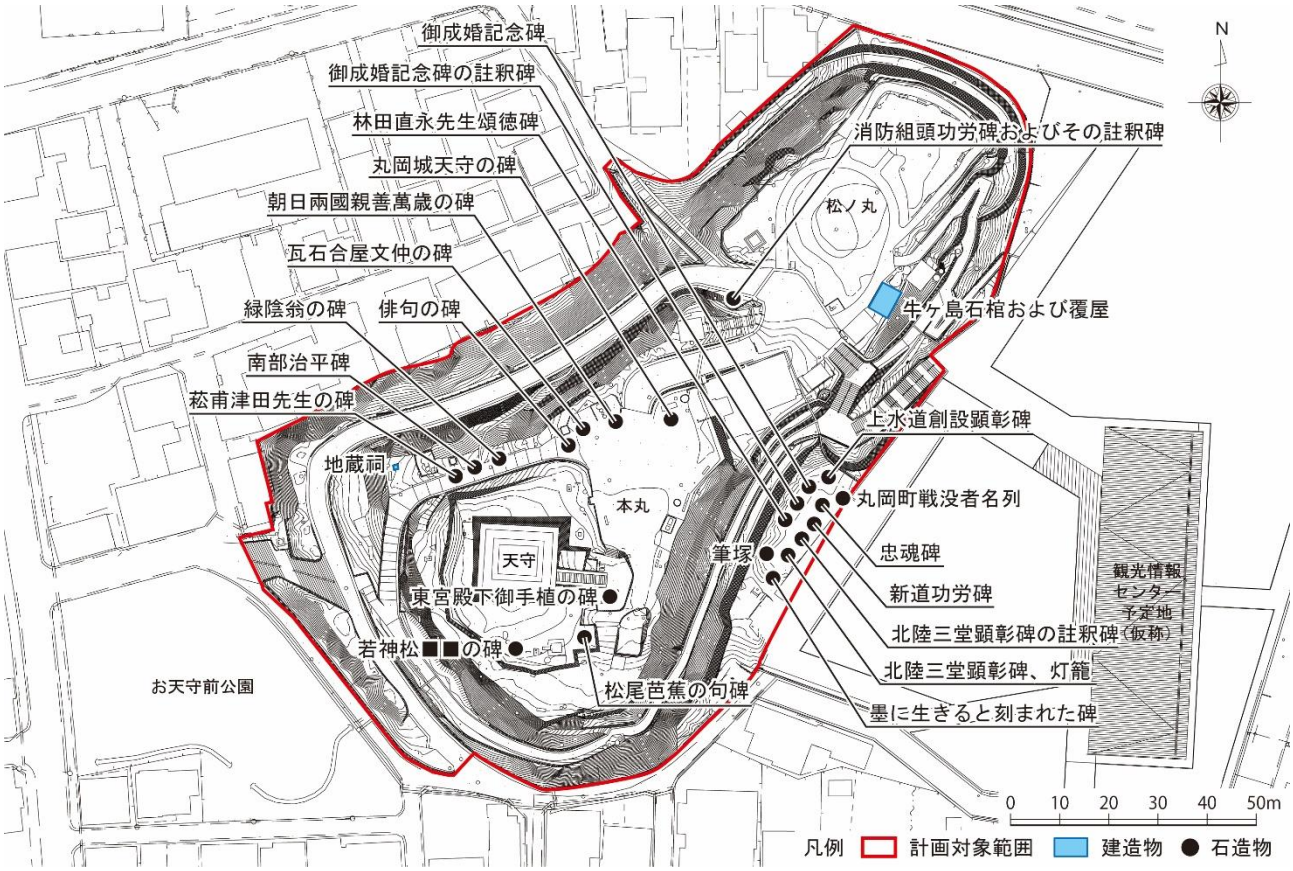


図 4-7. その他の諸要素分布図
※令和７年（2025）３月時点